2 本体取付板の設置

1.本説明書裏面の型紙を水平に壁にあて、本体取付板ねじ穴位置（6カ所）の印を壁に付ける。

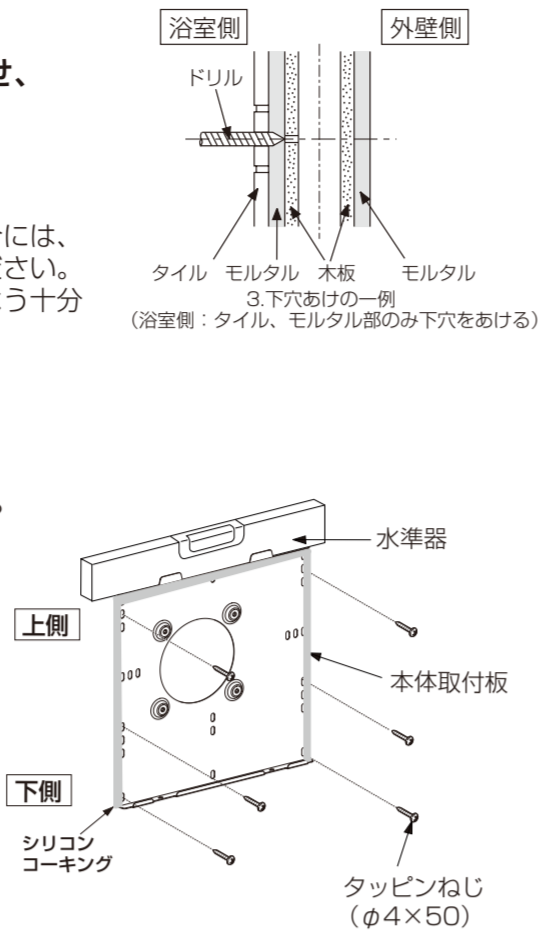
2.下穴をあける前に、本体取付板を印を付けた穴位置に合わせ、水準器を使用して水平度を再度確認する。

3.下穴あけの一例
（浴室側：タイル、モルタル部のみ下穴をあける）

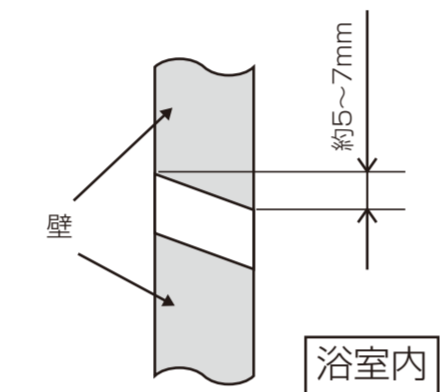
3.本体取付板ねじ穴位置に下穴をあける。
- ■浴室の内・外壁の現状確認を行い、タイル・壁等が損傷している場合には、お客様に説明し、了解を得ておくか、事前に補修を行っておいてください。
- ■タイルやタイル目地での下穴あけについては、タイルを破損しないよう十分注意してください。
- ■ねじ締め前に下穴の周囲にシリコンを塗布してください。
- ■下穴径は、壁面の材質に合わせてあけてください。
  ※ユニットバスの場合、下穴径φ2.8以下とする。

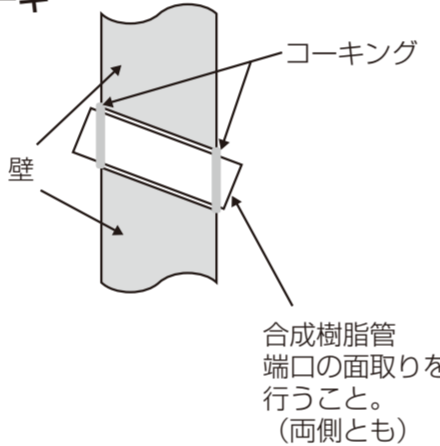
4.本体取付板を浴室の壁にタッピンねじ（6個）で取り付ける。
- ■この製品は7.3kgあります。本体取付板は、堅固に、また確実に浴室の壁に密着するように取り付けてください。
- ■タイル壁・モルタル壁の場合、市販のアンカープラグを使用して、確実に取り付けてください。
- ■ユニットバスの場合、下穴にシリコンを注入し、ねじは手締めして取り付けてください。
  ※ユニットバスと建築躯体間のすき間が小さい場合、躯体を傷つけないよう市販の短いタッピンねじ(φ4・SUS304製)を使用してください。
- ■水準器などで水平を確かめてから取り付けてください。

5.本体取付板を取り付け後、本体取付板周囲（下辺を除く）およびねじ止め部をシリコンにてコーキングする。

■水抜きのため下辺はシリコンコーキングしないでください。

3 電線取出穴をあける

外壁で電線を接続する場合

1.本体取付板の丸穴（φ94）内の適当な位置に電線取出穴をあける。
- ■電線取出穴は壁裏センサーを用いるなどして、壁裏の間柱、筋かい、ユニットバスの補強桟などを回避してください。
- ■電線取出穴の穴径は、使用する合成樹脂管（内径φ40以上）の外径に合わせてください。
- ■浴室から水漏れ防止のため、電線取出穴に右図のように勾配をつけてください。

2.電線取出穴に市販の合成樹脂管（内径φ40以上）を通し、コーキングで固定する。
- ■合成樹脂管は、コーキング代として、壁厚より10～15mm長く切断してください。また、切断した端面は、リーマーなどで端口の処理を行ってください。

コーキング
壁
合成樹脂管
端口の面取りを行うこと。
（両側とも）

天井裏で電線を接続する場合

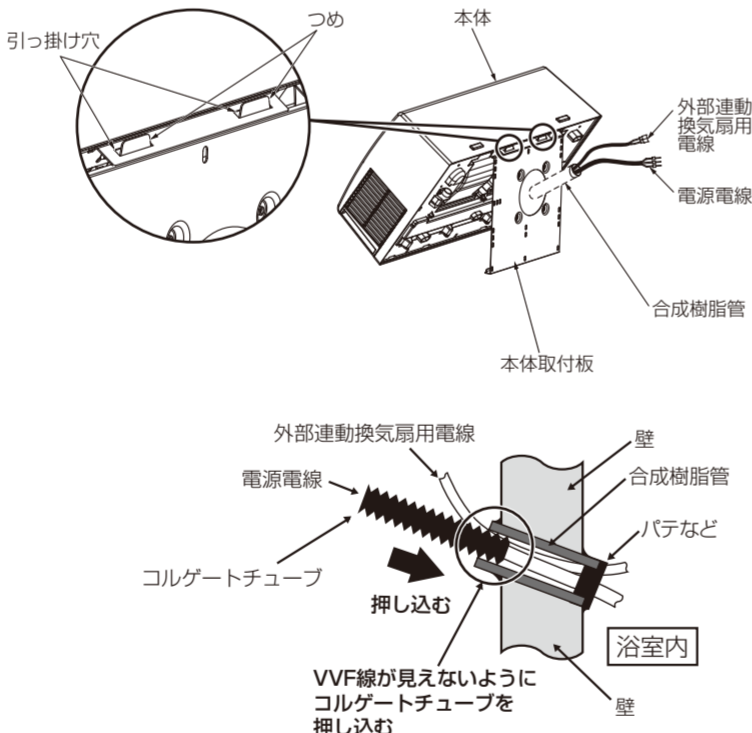
1.天井面の壁面に近い適当な位置に電線取出穴をあける。
- ■電線取出穴の穴径は、φ40で開けてください。

4 本体の取り付け

外壁で電線を接続する場合

1-1.本体の引っ掛け穴を本体取付板のつめに引っ掛ける。そのままの状態で本体の電源電線と外部連動換気扇用電線を合成樹脂管に通す。
- ■本体取付板の丸穴（φ94）の端面で電源電線および外部連動換気扇用電線を破損しないよう十分注意してください。

引っ掛け穴　つめ　本体　外部連動換気扇用電線　電源電線　合成樹脂管　本体取付板

1-2.湿気やすき間風などがもれないよう、合成樹脂管の浴室側をパテなどで仕上げる。
- ■合成樹脂管からVVF線が見えている場合は、結束バンドを切って、コルゲートチューブを合成樹脂管の中に入れ、VVF線を必ずカバーしてください。

天井裏で電線を接続する場合

1.本体の引っ掛け穴を本体取付板のつめに引っ掛ける。

共通

2.本体固定部を本体取付板の上側に差し込み、本体を固定する。

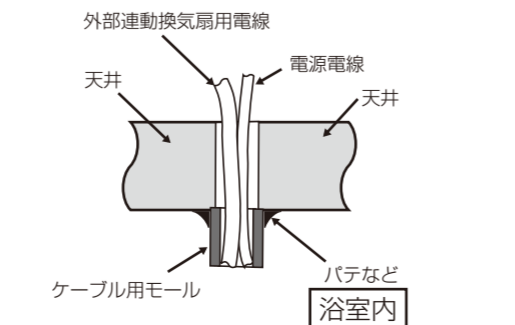
3.本体取付板と本体を付属のタッピンねじ（2個）で固定する。

本体取付板　本体　本体固定部　タッピンねじ（2カ所）（φ4×16 黒）
本体取付板　本体　タッピンねじ（φ4×16 黒）

お願い
本体の奥にあるのでフロントカバーの切り欠き部を参考に位置を確認してください。

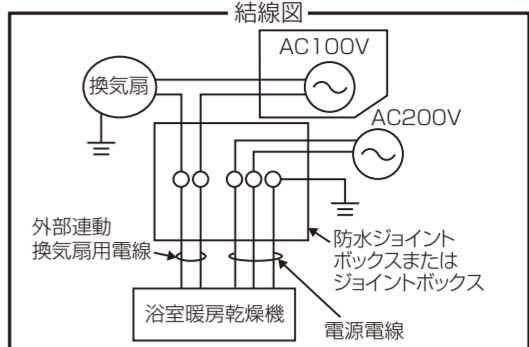
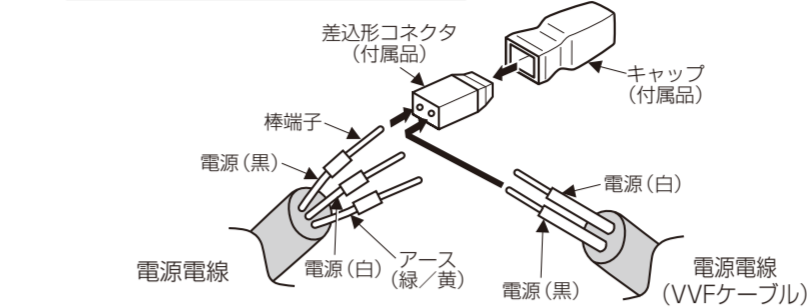
天井裏で電線を接続する場合

4.電源電線および、外部連動換気扇用電線を天井裏へ通し、浴室内に露出している電源電線および外部連動換気扇用電線をケーブル用モール等で覆う。

5.湿気やすき間風などがもれないよう、天井に開けた穴の浴室側をパテなどで仕上げる。

5 電源の接続

1.ジョイントボックス（市販品）の中で、電源電線（アース線含む）および外部連動換気扇用電線を付属の差込形コネクタを使い、右下の結線図に従って結線する。

2.差込形コネクタに付属のキャップを奥までかぶせる。（5カ所）

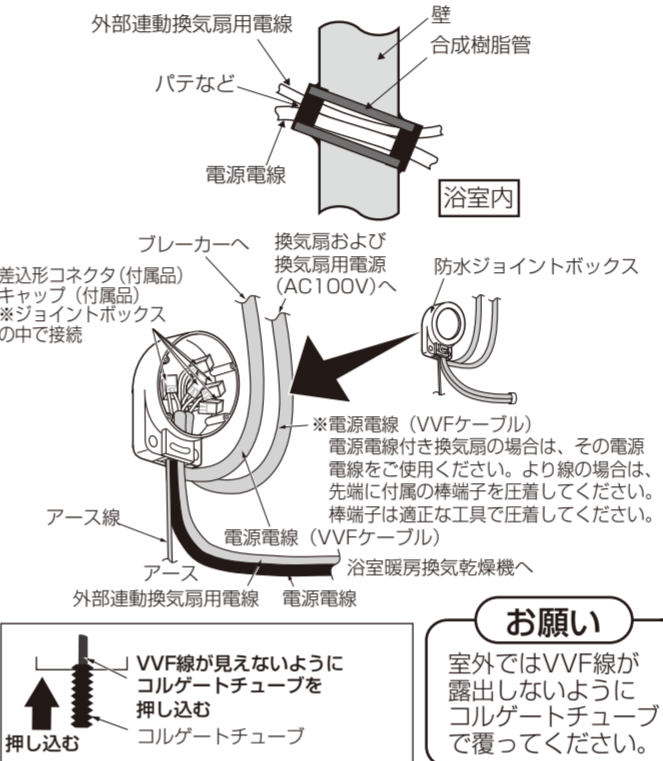
電源電線（黒）を接続する場合

- ■電源は必ず分電盤の専用ブレーカーに接続してください。
- ■電源電線のアース線（緑／黄）は必ず接続してください。[D種設置工事]
- ■電源電線はVVFケーブルφ1.6またはφ2を使用してください。
  細い心線の電源電線を使用すると、発熱により発火のおそれがあります。
- ■外部連動換気扇用電線は途中で切断しないでください。
- ■換気扇のアース線は絶対にはずさないでください。
- ■プラグは使用しないでください。
- ■電源は必ずAC200Vを使用して、各電源電線先端の棒端子は付属の差込形コネクタの奥まで確実に挿入してください。間違った電源を使用したり不十分な配線をすると、火災や故障の原因となります。
- ■換気扇用壁スイッチは使用できなくなりますので、スイッチカバー等でふさいでください。
- ■電源電線はバンドなどで束ねて収納しないでください。発熱により発火のおそれがあります。

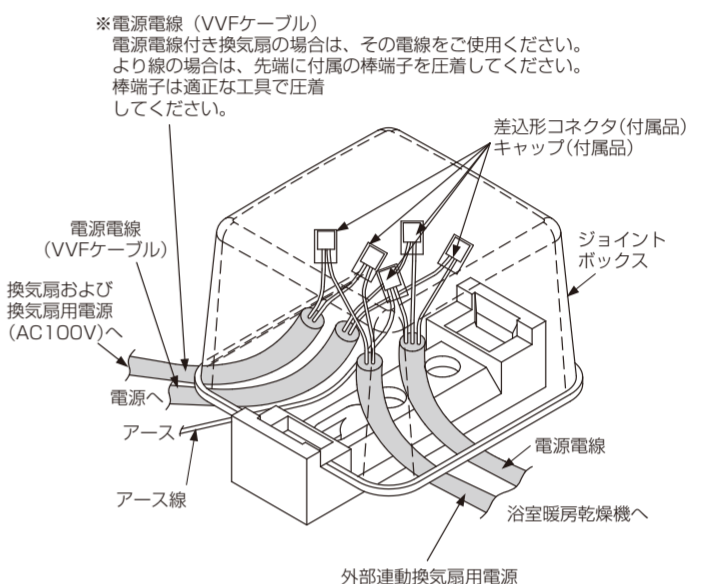
外壁で電線を接続する場合

必ず防水タイプのジョイントボックスを使用してください。

3.湿気やすき間風などがもれないよう、合成樹脂管の外壁側をパテなどで仕上げ、防水ジョイントボックスを使用し電線を接続する。

VVF線が見えないようにコルゲートチューブを押し込む
押し込む　コルゲートチューブ

お願い
室外ではVVF線が露出しないようにコルゲートチューブで覆ってください。

天井裏で電線を接続する場合

3.ジョイントボックスを使用し電線を接続する。

6 リモコンの取り付け

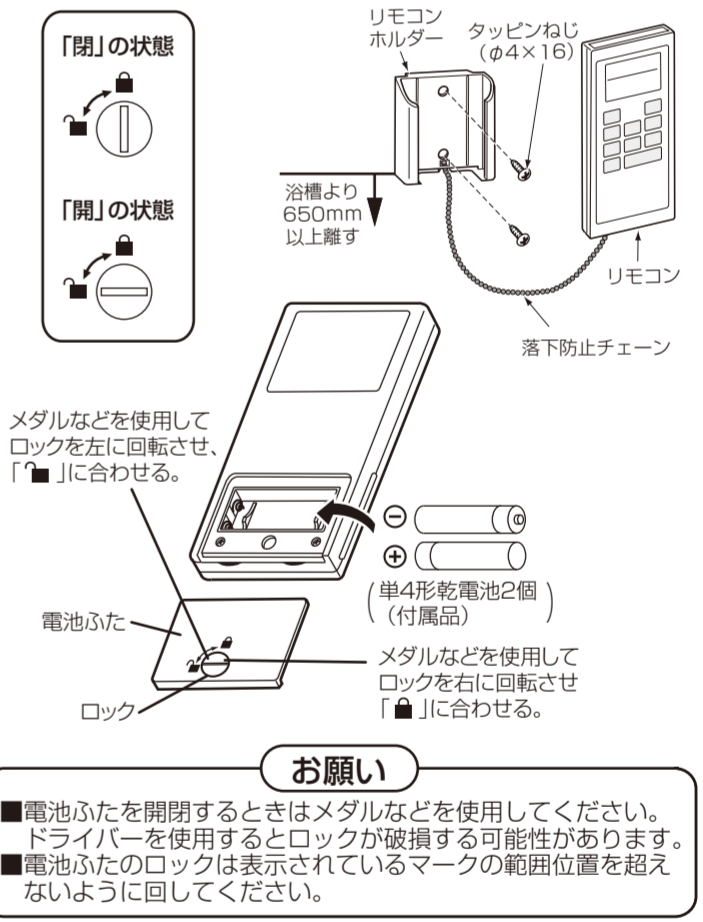
1.取り付け位置を決定する。
- ■リモコンには約300mmの落下防止チェーンが付いています。
  （取り付け位置はお客様とご相談のうえ決定してください）

浴室外設置の場合
- ■浴室のドアを開けてリモコン受信部に向けて無理なく操作できる位置に設置してください。

浴室内設置の場合
- ■シャワーなどの水がかかりにくい場所に設置してください。
- ■浴槽の上は避けてください。
- ■取り付ける高さは浴槽より650mm以上高くしてください。
- ■洗い場側の壁に取り付けてください。
  （製品を取り付けている壁面への設置はしないでください）

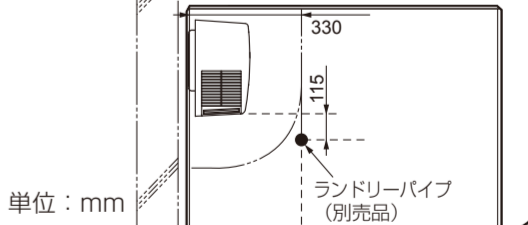
2.リモコンホルダーを付属のタッピンねじ（2個）で固定する。
- ■取り付け位置が石こうボードやタイルなどの場合、ねじが取り付かないことがありますので、その際は市販のアンカープラグを使用してください。
- ■浴室内設置の場合はねじ穴は必ずシリコンでコーキング処理を行ってください。
  はみ出したシリコンコーキング材は拭き取ってください。

3.リモコンに電池を入れる。

「閉」の状態
「開」の状態

お願い
- ■電池ふたを開閉するときはメダルなどを使用してください。
  ドライバーを使用するとロックが破損する可能性があります。
- ■電池ふたのロックは表示されているマークの範囲位置を超えないように回してください。

7 ランドリーパイプの取り付け

右記の位置に、ランドリーパイプ（別売品）を取り付ける。
- ■指定の寸法以外で取り付けますと、乾燥時間が長くなります。

単位：mm

8 試運転

取扱説明書の「使いかた」のページを参照し、試運転を行い異常がないか確認する。
異常についての内容、処置については取扱説明書の「故障かな!?」のページを参照する。
- ■引き渡しまで期間があく場合は、試運転確認後、リモコンの電池を抜き、取扱説明書とともにお客様にお渡しください。

<試運転の内容>
1. 各モードのボタンを押して、正常に動作していることを確認する。（全モード）
2. 止ボタンを押して、運転を停止させる。

9 確認事項のチェック

右記の確認表に従い、確実に施工したかを再度確認してください。施工できていれば ✓ チェックを記入してください。

チェック内容	チェック欄
製品はしっかり付いていますか？	
製品の周囲に適切なすき間がありますか？（[1] 設置位置の決定を参照）	
ランドリーパイプの取り付け位置は正しいですか？（[7] ランドリーパイプの取り付けを参照）	
異常音はありませんか？	
電源電線・アース線の接続は確実に行われていますか？	
電源は単相AC200Vに接続されていますか？（AC100Vに接続されると動作しません）	

試運転のあとは

■工事店様へ
施工後は、同梱の「取扱説明書（保証書付き）・所有者票セット」をお客様へお渡ししてから、製品の使いかたを説明してください。取扱説明書に付属の保証書には、店名および取付日を必ず記入してください。